

歌はなぜ人々の心を魅了してやまないのでしょうか。

モーツァルトのヴァイオリンコンチェルトはオペラ的であるとよく言われます。パガニーニは、ロッシニのオペラのメロディをテーマにイ・バルビティを書きました。フランス歌曲の雄として知られるフォーレがヴァイオリンコンチェルトを書くこととなるのか…。

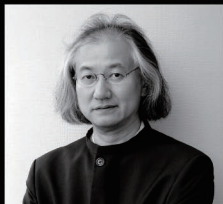
演奏されることの少ない隠れた名曲を、オーケストラと共に奏するヴァイオリンのヨーロッパぐるり一周歌の旅をお楽しみいただけましたら幸いです。

宮崎 陽江



宮崎陽江 Yoë Miyazaki (ヴァイオリン)

ニューヨーク州イタカ市生まれ、幼少期をパリにて過ごし、3歳よりヴァイオリンを始める。桐朋学園高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。その間、堀正文、山口裕之、江戸純子各氏に師事。同大学を卒業と同時に全額奨学金を得て米国タングルウッド音楽祭(小澤征爾監修)に参加。後、ジュネーヴ高等音楽院に留学、名匠ジャン＝ピエール・ヴァレズ氏に師事。在学中、室内楽をガボール・タカーチ、モダン・バロック両楽器をハンス＝ハインツ・シュネーベルガー氏の元で学ぶ。1997年、同音楽院をブルミエ・プリ(一等賞)にて卒業。これまでにスイス、フランス、スペイン、オーストリアなど、ヨーロッパ各地での演奏会、国際音楽祭に多数出演、また、ソリスト・ド・ジュネーヴ、ジュネーヴ室内管弦楽団、ブドヴァイス管弦楽団、などと共演を果たす。日本では2007年より毎年札幌コンサートホール、08年銀座王子ホール、09年カザルスホール、10年浜離宮朝日ホールをはじめ、各地でリサイタルを行い、好評を博した。2008年よりオクタグヴィア・ジャパンから4枚のCDをリリース。更にはスイスと日本を拠点とした活動を生かし、音楽の漂流、また作曲家の足跡を求めヨーロッパ各地で取材・撮影されたDVDシリーズで、ナヴラ交響楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団と共演するなど、多方面で活動を展開。2010年より、師であるジャン＝ピエール・ヴァレズとともにピアノ五重奏で活動、ヨーロッパ各地にてコンサートを開催し、フランスの優れたピアノ五重奏曲の発掘、録音をおこなっている。



矢崎彦太郎 Hikotaro Yazaki (指揮)

上智大学数学科で学んだ後、東京藝術大学指揮科に再入学、金子登、渡邊晩雄、山田一雄各氏に指揮法を学ぶ。日本フィル指揮研究員として小澤征爾の助手を務め、その後ヨーロッパにて、スワロフスキー、チェリビダッケなどに師事。プザンソン国際指揮者コンクールなどに入賞を果たし、1975年ボーンマス交響楽団を皮切りに本格的に指揮活動を開始、BBC響などに招かれる。1979年よりパリに拠点を移す一方、同年東京交響楽団を指揮し日本にも本格的なデビューを果たす。これまでに、東京交響楽団指揮者、旧西ドイツフツフ交響楽団音楽監督・首席指揮者、フランス国立トゥールーズ室内管弦楽団首席客演指揮者などを歴任。2002年より東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団首席客演指揮者。また、2000年よりバンコク交響楽団名誉指揮者、2004年から2009年まで同楽団音楽監督・首席指揮者、2005年よりジャカルタのメサタラ交響楽団音楽監督、2009年よりガラヤニ・ワタナオーケストラ指揮者を兼任。パリ在住。

札幌交響楽団 Sapporo Symphony Orchestra

札幌交響楽団は、1961年発足。北海道唯一のプロ・オーケストラとして「札幌」の愛称で親しまれている。現在、音楽監督は尾高忠明、首席客演指揮者ラドミル・エリシュカ、楽団員数は77名。北海道にふさわしい透明感のあるサウンドとパワフルな表現力で評価を高め、2011年の創立50周年を記念したヨーロッパ3か国5都市を巡るツアーでは大きな成功を収めた。最高の音響を誇る札幌コンサートホールKitaraを本拠にした定期演奏会や北海道内各地、東京などの定期公演、青少年向け演奏会、夏の野外ステージなど年間の公演回数は約120回。さらに各地でアウトリーチ活動に取り組んでいる。



札幌コンサートホール Kitara

〒064-8649 札幌市中央区中島公園1-15
Tel.011-520-2000

【アクセス】

- 地下鉄南北線「中島公園」駅…徒歩7分
 - 地下鉄南北線「すすきの」駅…徒歩7分
 - 市電「中島公園通」駅…徒歩4分
- 札幌市営バスにのりかえする場合は、市営バスにのりかえの乗換案内を参照してください。